

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価計画

学校名		鹿島市立北鹿島小学校		
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度重点目標として掲げた、「技」授業力の向上、「心」特別支援教育の充実、「体」身体遊び・運動習慣の定着、「連携」地域との体験活動の充実については、プロジェクトからの提案について全職員で共通理解をしながら取り組み、成果を上げることができた。 ・持続可能な学校づくりや、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるように、業務改善や働き方改革を更に推進する必要がある。 			
2 学校教育目標	<p>「命 ひびき合い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ★児童一人一人が可能性を広げ、生き生きと自分のよさを発揮している姿 ★学び合いながら、互いの良さを認め、それぞれの感性をひびき合わせている姿 ★保護者や地域の人の支えに感謝し、自分たちの学びを発信する姿 			
3 本年度の重点目標	<p>「技」メンタリングOJT研修による授業改善 「心」特別支援教育の充実 「体」自主的体育活動の奨励 【連携】体験活動の計画的実施</p>			
4 重点取組内容・成果指標				
(1)共通評価項目				
	重点取組			主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
●学力の向上	○教職員全体の授業力向上と家庭学習の充実に基づく児童の学力向上	○授業力向上に係る授業公開もしくは授業参観(OJT)を全職員が2回以上行う。(学力向上シートに示した共通実践) ○全教育活動を通して、児童の活動保障、個別指導・支援の充実を図る。(職員アンケートでの向上) ○学年ごとのめやす時間(1・2年生30分 3・4年生 45分 5・6年生 60分)以上家庭学習に取り組む児童の割合を80%以上にする。	・職員が学びたいことや職員の強みを整理し、マッチングを行いやすい環境をつくる。 ・みるみるシートを活用し、メンター、メンティにフォローアップすることで、授業公開の効果を高める。 ・家庭学習に関するOJT研修を実施し、職員全体で家庭学習の充実に取り組むとともに、北鹿島っ子ががんばり週間を実施したりすることで、児童・保護者に対して家庭学習についての啓発を行う。	学力向上PJ
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生活アンケートで、「学校生活の中で、自分のことを認めてもらうことができますか。」の割合を85%以上にする。	・「命ひびき合い広め隊」の放送で、子どもたちが自分の良さを発揮している姿を紹介する。放送で紹介されたカードを掲示したり、本人にカードを直接渡したりすることで、自己肯定感を高めている。 ・道徳の授業を年1回公開し、家庭への啓発を行う。	心の教育PJ
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「生活アンケート」の実施で、学校生活が楽しい児童の割合を90%以上にする。	・月に1回生活アンケートをとり、児童1人1人をより小まめに把握し、問題の早期解決を図る。 ・年間1回以上、校外の講師を招いて研修会を行い、子どもの見取り方を学ぶ。	心の教育PJ
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・全職員で子どもの他者を思いやる姿やさりげなく助け合う姿を褒めていく。 ・自分の良さや特技を発表できる「いきいき集会」を年2回開催し、互いの良さを認め合うことで、他者を思う心や自己肯定感を育てていく。	心の教育PJ
●健康・体づくり	④「安全に関する資質・能力の育成」	④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・「北鹿島小安全マップ」を用いて、危険箇所等について児童と情報を共有する。 ・地域見守り一斉下校指導を年間3回行い、安全教育の推進を図る。	健康教育PJ
	○自主的体育活動の奨励	○進んで運動しようとする児童の割合を90%以上を目指す。	・委員会による体育的イベント実施や県の「さがんキッズスポーツチャレンジ」への取組等で、全児童の運動への意識向上の支援を行う。 ・たてわり活動やマラソンタイムを充実させる。	健康教育PJ
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・ICTの活用、業務内容の精選、職場環境の整理等により業務改善を図る。 ・担任が年休をとりやすい職場づくりや長期休業中にまとまった年休がとれるように会議、研修の精選を行う。	管理職
●特別支援教育の充実	○全職員の意識と専門性の向上 ○家庭との連携	○教育活動を進めていくにあたって、合理的配慮を行っているという回答する職員を90%以上にする。 ○「学校は、児童一人ひとりの理解に努め、指導や支援を行っている」という問いに、肯定的な保護者の回答を90%以上にする。	・合理的配慮を取り入れた環境および授業づくりについて、職員みんなで学ぶ研修会を行う。 ・児童のつまずきに応じた指導を工夫し、その手立てと効果について、通信等で保護者に発信していく。	特別支援教育B
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				
	重点取組			主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
○地域連携	○体験活動の計画的実践	○(学校独自成果指標・任意) ・地域のよさを感じることができる児童90%以上を目指す。 ・地域のよさを実感した単元作りができたという職員90%以上を目指す。	・地域人材シートを活用した体験活動を仕組む。 ・児童が主体的に取り組むことができるような単元作りを工夫する。 ・体験活動で学んだことを発信する場を設定する。	郷土愛・体験活動P
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育				
5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 			